

種 名 アシ

万葉時代の呼名 あし・葦



詠人作者未詳

万葉集卷十一 二五六五

花ぐはし葦垣越しにただ一目
相見し見ゆ息千たび嘆きつ

【現代訳】

葦の垣根ごしにたった一目ながら目を合わせてしまった乙女のために、もう千
たびも嘆いたよ

【アシの解説】 湿地性のイネ科の植物

「ヨシ」という名は「アシ」が「悪し」に通じるのを忌んで、逆の意味の「良し」と言い替えたのが定着したものであるが、関東では「アシ」、関西では「ヨシ」が一般的である。条件さえよければ地下茎は一年に5m伸び、適当な間隔で根を下ろす。垂直になった茎は2~6mの高さになり、暑い夏ほどよく生長する。花は暗紫の長さ20~50cmの円錐花序に密集している。主として河川の下流域から汽水域上部などの湿地に広大な茂み(ヨシ原)を作る。根本は水につかるが、水から出ることもある。水流の少ないところに育ち、多数の茎が水中に並び立つことから、その根本には泥が溜まりやすい。このように多くの泥が集まり、蓄積する区域は、有機物の分解が多く行われる場所でもある。他方で、その茎は多くの動物の住みかや隠れ場としても利用され、ヨシキリ、ヨシゴイといった鳥類と関わりが深い。このように、分解の場となり、多くの水生動物のよりどころとなるヨシ原は、自然の浄化作用の上で重要な場所であり、野生動物と環境保護に重要な植物群落であると言える。